

事業番号 11
千葉県 県土整備
公共事業評価審議会
平成29年度

事業再評価

都市公園事業

千葉県立長生の森公園

平成30年3月19日

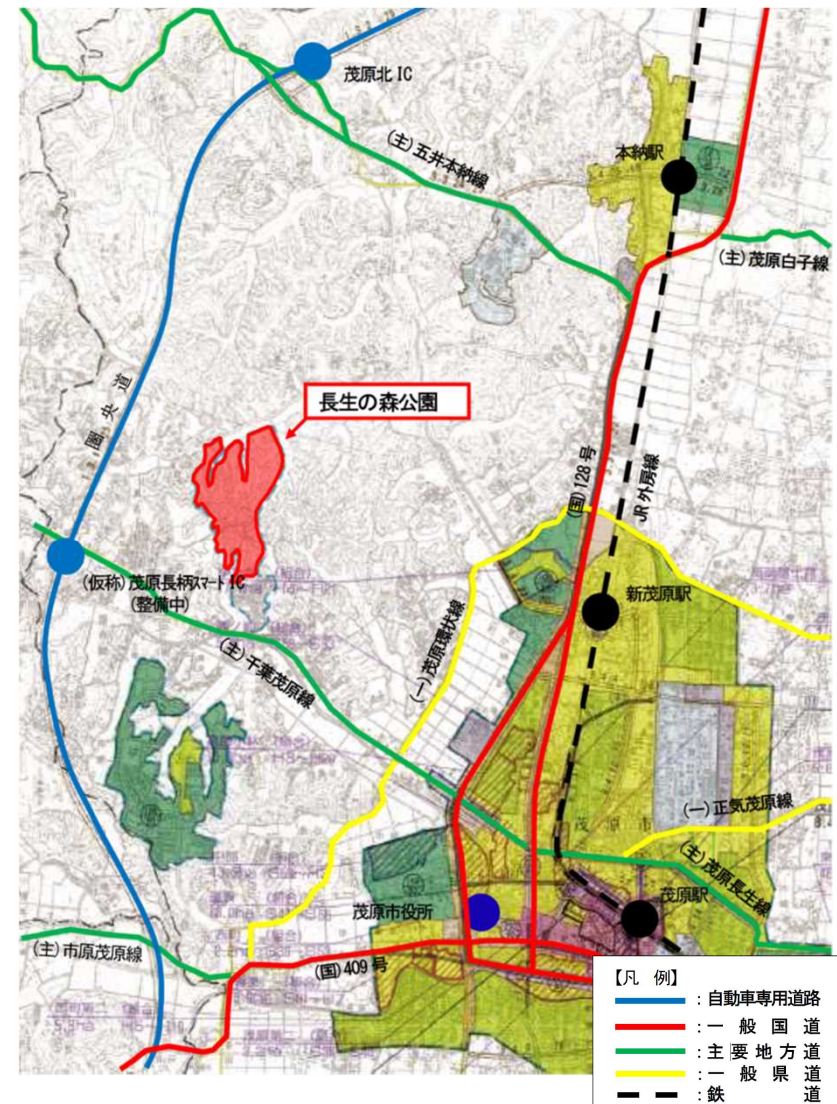
千葉県 県土整備部 都市整備局 公園緑地課

目次

1. 事業の概要
2. 事業の進捗
3. 社会経済情勢
4. 事業投資効果
5. 対応方針(案)

1. 事業の概要

(1) 長生の森公園の位置



1. 事業の概要

(2) 長生の森公園の事業概要



位置	茂原市真名・押日地先
計画面積	48.2ヘクタール
公園種別	広域公園
都市計画決定	平成5年3月19日
事業認可	平成6年1月27日 平成20年3月6日(事業計画変更認可)
事業期間	平成5年度～平成34年度
主な施設内容	【公園南側】 野球場を中心に運動施設を配置したスポーツゾーン ・野球場、テニスコート、ゲートボール場 【公園北側】 豊かな自然環境を活かし、レクリエーション活動に対応した施設を配置した多目的広場ゾーンや体験広場ゾーンなどにより構成 ・多目的広場、駐車場 ・体験広場、体験の森 ・散策路
部分供用開始年度	平成14年度(南側区域 10.2ha) 主要施設: 野球場(H14)、庭球場(H15)、ゲートボール場・駐車場: H16
全体供用開始年度(予定)	平成35年度(北側区域 38ha) 主要施設: 多目的広場(H30予定)、駐車場(H31予定)、体験広場(H33予定)、体験の森(H34予定)、散策路(H34予定)

2. 事業の進捗

(1) 事業の進捗状況

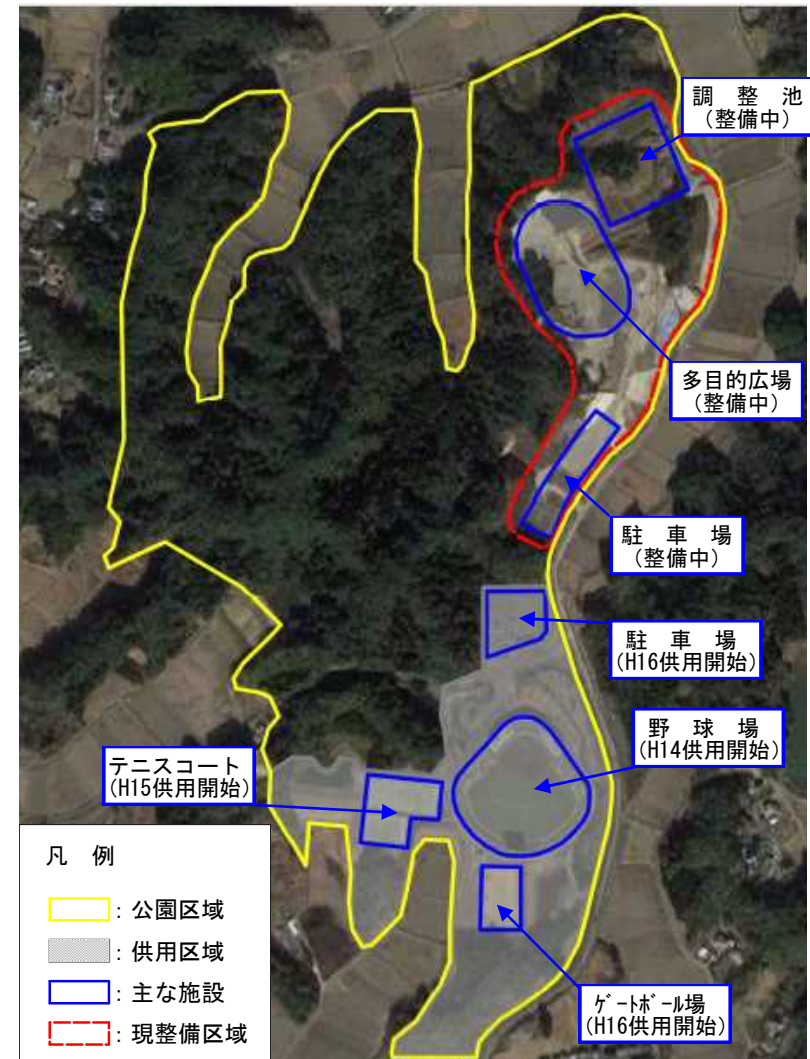
○南側区域(スポーツゾーン)

- ・全面供用済(10.2ha)
- ・主要施設: 野球場(H14供用)
テニスコート(H15供用)
ゲートボール場(H16供用)

○北側区域

- (多目的広場・体験広場ゾーンなど)
- ・整備中(約10ha)
- ・主要施設: 多目的広場
調整池
園路・駐車場

	全体金額	平成29年度末 見込み	進捗率
全体事業費	140.7億円	125.2億円	89.0%
うち用地費	67.5億円	67.4億円	99.9%
うち施設費	73.2億円	57.8億円	78.9%



2.事業の進捗

(2) 供用済施設の利用状況

- 平成14年度の開設以降、公園利用者は増加
- 野球場を中心に地域スポーツの拠点として、地域の健康づくりとレクリエーション需要に対応



野球場(H14供用開始)

【主な利用】
高校野球大会(春季・夏季)
大学野球リーグ(秋季)
【H28利用者数】
約36,000人



テニスコート(H15供用開始)

【主な利用】
テニス大会
テニス教室
【H28利用者数】
約10,300人



ゲートボール場(H16供用開始)

【主な利用】
グラウンドゴルフ大会
【H28利用者数】
約17,000人

利用者数

施設名	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
野球場	21,180	16,115	16,679	23,811	28,849	25,069	24,442	35,724
庭球場	20,748	21,706	22,084	21,329	19,730	20,138	20,262	17,224
ゲートボール場	7,064	7,746	8,323	8,028	8,375	9,907	9,843	10,318
合計	48,992	45,567	47,086	53,168	56,954	55,114	54,547	63,266

2. 事業の進捗

(3) 整備中の施設

①整備中区域全景



②多目的広場



④園路・駐車場



③調整池



3. 社会経済情勢

- 大規模災害発生時に必要な施設の整備が求められており、平成6年に茂原市が広域避難場所に指定したことに加え、平成26年には千葉県が広域防災拠点に指定している。
- 平成25年に圏央道が開通したことに加え、公園近傍に(仮称)茂原長柄スマートICを新たに整備中である。
- 県の総合計画『次世代への飛躍 輝け！ちば元気プラン』により地域のスポーツ・レクリエーションや避難場所などの多様な機能を有する公園として、整備を推進することが位置付けられていることに加え、公園南側区域の開設以降、利用者は増加しており、今後も地域の中心となるレクリエーション施設の充実が求められている。
- 地元市や利用者からも未供用区域における早期整備が望まれている。
- 平成29年6月の都市公園法の改正により、民間活力による新たな都市公園の整備手法が創設された。

○防災上の位置付け

- 広域避難場所(茂原市)
 - ・地震、洪水、土砂災害等の各種災害発生時における一時避難場所
- 広域防災拠点(千葉県)
 - ・各種救援部隊(自衛隊、消防、警察)の応急活動における展開拠点
 - ・救援物資の集計拠点

【想定される大規模災害】

- ・九十九里沿岸部における津波など

【現状と課題】

- ・沿岸部との多数市町村との連携が必要
- ・病院や物流倉庫等に施設に乏しい



茂原市内の浸水想定域(出典:茂原市洪水ハザードマップ)

支援ゾーンの区分		各支援ゾーンの主要な役割
都市型大規模災害支援ゾーン	東葛・葛南	東葛・葛南地域への支援
	千葉中央	千葉市中央部への支援 全県下への支援
	市原・木更津	市原～君津地域への支援 県南部への支援
沿岸部地震・津波支援ゾーン	長生・夷隅	長生・夷隅地域の地震・津波被害への支援
	海匝・山武	海匝・山武・香取地域の地震・津波被害への支援
半島南部支援ゾーン	館山・鴨川・勝浦	館山・鴨川・勝浦地域と海岸沿い及び山間部の孤立地域への支援
広域支援ゾーン	成田・印西	広域に要支援地域を支援

出典:千葉県防災支援ネットワーク基本計画

○圏央道の整備状況について

- 東金JCT～木更津東IC

- ・開 通:平成25年4月

- ・交通量:8,600台(東金JCT～茂原北IC)

- 4,200台(茂原北IC～茂原長南IC)

- ※H27道路交通センサスより

- 茂原長柄スマートIC

- ・公園から約3kmの位置に設置

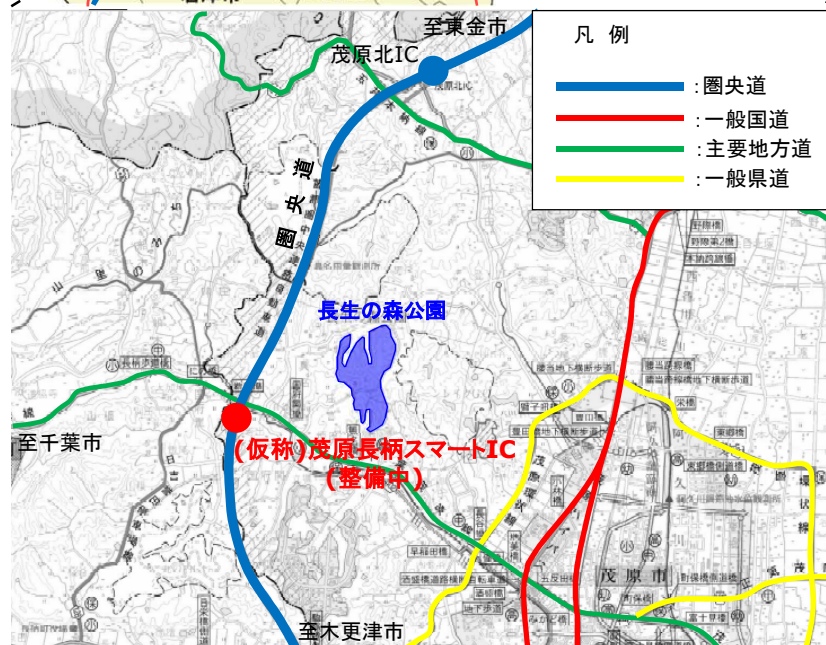
- ・整備期間:～平成32年3月(予定)

↓

公園へのアクセスが向上し、
広域的な集客効果が見込める

↓

公園利用者の増加が期待できる



○今後の事業の進め方

1. 今後の主な整備予定

エントランスゾーン : 園路・駐車場・・・整備年度:H30～H31 事業費:約4.8億

多目的広場ゾーン : 多目的広場、調整池、管理棟など・・・整備年度:H30～H31 事業費:約1.8億

体験広場ゾーン : 体験広場・体験の森(デイキャンプ場、休憩所など)・・・整備年度:H32～H34 事業費:約8.6億

保全活用・展望ゾーン : 散策路・・・整備年度:H34 事業費:約0.3億

2. コスト縮減の方策

(1)施設整備費の縮減

- ・現況地形を活かしつつ、土量バランスに配慮した造成計画(発生土の有効利用)
- ・現場発生材の再利用(発生木を利用した公園施設の整備など)
- ・民間活力を導入した施設整備の検討

(2)維持管理費の縮減

- ・指定管理者の導入
- ・企業やNPOを主体とした管理運営の検討

発生木を利用した公園施設の整備



造成工事により木材が発生



散策路整備に流用
(※写真はイメージ)

以上により、公園整備を着実に進めていく

4. 事業投資効果

(1) 費用便益比B／Cの比較

分析実施年度	前回再々評価(平成24年)	今回再々評価(平成29年)
使用マニュアル	改訂第2版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル(H19.6)	改訂第4版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル(H29.4)
評価手法	・「公園までの旅行費用」に着目して、公園整備の価値を貨幣価値化(直接利用価値) ※「公園利用者は、公園までの移動費用をかけてまでも公園を利用する価値があると認めている」ことを前提 ・公園が存在することにより得られる次の価値(環境面・防災面)についての「満足度」を貨幣価値化(間接利用価値) ・便益計上期間: 部分供用開始～部分供用後50年後	・「公園までの旅行費用」に着目して、公園整備の価値を貨幣価値化(直接利用価値) ※「公園利用者は、公園までの移動費用をかけてまでも公園を利用する価値があると認めている」ことを前提 ・公園が存在することにより得られる次の価値(環境面・防災面)についての「満足度」を貨幣価値化(間接利用価値) ・便益計上期間: 部分供用開始～全体供用後50年後
考え方	$\frac{\text{総便益(直接利用価値+間接利用価値)}}{\text{総費用(用地費+整備費+維持管理費)}}$	$\frac{\text{総便益(直接利用価値+間接利用価値)}}{\text{総費用(用地費+整備費+維持管理費)}}$
基準年度	平成24年度	平成29年度
供用開始年度	部分供用: 平成14年度 全体供用: 平成29年度	部分供用: 平成14年度 全体供用: 平成35年度
総便益(B)	273.2億円	344.4億円
総費用(C)	202.2億円	263.5億円
B／C	1.35	1.31

4. 事業投資効果

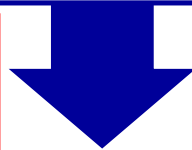
(2) 残事業の投資効率性

$$\begin{aligned}\text{費用便益比 (B/C)} &= \frac{\text{継続した場合の便益} - \text{中止した場合の便益}}{\text{継続した場合の費用} - \text{中止した場合の費用}} \\ &= 1.10\end{aligned}$$

5. 対応方針(案)

- 広域避難場所や広域防災拠点に指定されており、地域防災計画上重要な公園であること。
- (仮称)茂原長柄スマートICの整備により、公園へのアクセスがさらに向上し、地域の魅力アップを図ることで、より広域的な集客効果が見込め、公園利用者の増加が期待できること。
- 上位計画への位置付けや、地元からの早期完成の要望がある状況において、多目的広場ゾーンを中心とした公園北側区域が完成することにより、自然環境を活かした体験活動などのレクリエーションが可能となり、既に供用されている公園南側のスポーツゾーンと併せ、多様なニーズに対応できること。
- 公園北側区域については、来年度に多目的広場が完成予定であること。また、残る体験広場等は、現況地形を活かした整備を進めるとともに、民間活力導入の検討も行うこと。

公園整備の必要性が高いことに加え、
費用便益比は1.31と費用対効果も見込める



事業継続